潤光幼稚園　1929（S4）～　不明

久野タマは、雪ノ下千度小路、鉄（くろがね）の井戸近く、77 坪の敷地に 3 坪の事務室 13 坪の遊戯保育室を備え、保育料月 3 円の潤光幼稚園を 1929（S4）年に設立した。潤光とはあまねく光に潤すという意味で付けられたという。園児は 30 人程で、作家久米正雄の息子や由比ガ浜から通って来ていた男の子もいた。

33 年 4 月には、北鎌倉台の山（現・北鎌倉女子学園のところ）に、私財を投じて潤光学園を設立し、幼稚園も北鎌倉へ移ったといわれるが、幼稚園のその後の記録は見当たらない。

タマの学園設立の志は、学習院時代の恩師下田歌子の「揺籃を動かす者は天下を動かす」の言葉に感動したことにより、女子教育の重要であることを考えたからであるが、当初入学者は 5 人であった。学園には、体育教師としてエリアナ・パブロバの写真姿が残る。

36 年、学園は横浜市鶴見区生麦へ移転した。

39 年、5 年制の潤光高等女学校として認可され、タマの志を受け継ぐ、自由主義的教育が行われていた。

49 年には、法政大学潤光女子中・高等学校となる。タマは「潤光」の文字を永久に校名に入れるよう希望するが、53 年には、法政大学女子中・高等学校となり今日に至る。